

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4708424号
(P4708424)

(45) 発行日 平成23年6月22日 (2011.6.22)

(24) 登録日 平成23年3月25日 (2011.3.25)

(51) Int. Cl.

F 1

A O 1 M 3/00 (2006.01)

A O 1 M 3/00

Z

A O 1 K 13/00 (2006.01)

A O 1 K 13/00

Z

請求項の数 7 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2007-516886 (P2007-516886)
 (86) (22) 出願日 平成17年6月20日 (2005.6.20)
 (65) 公表番号 特表2008-503223 (P2008-503223A)
 (43) 公表日 平成20年2月7日 (2008.2.7)
 (86) 国際出願番号 PCT/AU2005/000885
 (87) 国際公開番号 W02005/122920
 (87) 国際公開日 平成17年12月29日 (2005.12.29)
 審査請求日 平成20年5月2日 (2008.5.2)
 (31) 優先権主張番号 2004100487
 (32) 優先日 平成16年6月21日 (2004.6.21)
 (33) 優先権主張国 オーストラリア (AU)
 (31) 優先権主張番号 2004903331
 (32) 優先日 平成16年6月21日 (2004.6.21)
 (33) 優先権主張国 オーストラリア (AU)

(73) 特許権者 506422272
 ベテリナリーカンパニーズ オブ オー
 ストラリア プロプライエタリー リミテ
 ッド
 VETERINARY COMPANIE
 S OF AUSTRALIA PTY
 LTD
 オーストラリア国 2148 ニューサウ
 スウェールズ州 キングス パーク ビニ
 ー ロード 26
 (74) 代理人 100068755
 弁理士 恩田 博宣
 (74) 代理人 100105957
 弁理士 恩田 誠

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ダニを除去する装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

動物およびヒトからダニを除去するための装置であって、
 長手方向の軸線を有する長尺状グリップと、
 長尺状グリップの一端に配置された第1の二股状チップと、
 長尺状グリップの第二端に配置された第2の二股状チップとを備え、
 第1の二股状チップおよび第2の二股状チップは長尺状グリップの長手方向の軸線に対
 してほぼ直角に延び、第2の二股状チップは第1の二股状チップよりも小さい装置。

【請求項 2】

第1の二股状チップおよび第2の二股状チップは長尺状グリップに向かって湾曲してい
 る請求項1に記載の装置。

10

【請求項 3】

第1の二股状チップおよび第2の二股状チップは長尺状グリップに対して直線状である
 請求項1に記載の装置。

【請求項 4】

第1の二股状チップと第2の二股状チップとは、長尺状グリップの長手方向の軸線から
 ほぼ直角に、かつ反対方向に延びる請求項1に記載の装置。

【請求項 5】

第1の二股状チップと第2の二股状チップとは、長尺状グリップの長手方向の軸線から
 ほぼ直角に、かつ同一方向に延びる請求項1に記載の装置。

20

【請求項 6】

第 1 の二股状チップおよび第 2 の二股状チップは二股に分岐して分岐先端部を形成し、分岐先端部は、ダニを除去するためにダニを離脱可能に係合することに適する、分岐先端部同士の間に長尺状の V 字型の空間を形成する請求項 1 に記載の装置。

【請求項 7】

二股状チップはその分岐先端部の先端において面取りされている請求項 1 に記載の装置

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、動物およびヒトの皮膚からダニなどを除去する装置に関する。

【背景技術】

【0002】

ダニは動物およびヒトの健康にとって極めて有害である。ダニは口吻を表皮に貫通させることにより罹災者を感染させ、強制的に除去されるまで皮膚に着生し続ける。ダニは咬着した動物またはヒトの血液を吸引する間に、ダニはしばしば動物またはヒトに侵入する可能性を有するバクテリアを運搬する。ヒトの場合には、咬着により麻痺やアレルギー反応を引き起こし、ライム病（重篤なインフルエンザに類似した症状を呈する疾患）を引き起こすこともある。動物においてはダニが寄生すると麻痺を引き起こし、重篤な場合には死亡することもある。

【0003】

従来、ピンセットを用いてダニを取り除き、ダニを焼却したりダニ駆除剤を用いたりしている。ピンセットは種々のサイズのダニに対して使用できるという利点を有する。しかし、ピンセットはダニの胴体を押つぶすこととなり、血液と唾液とが寄主上に広がる可能性がある。

【0004】

特許文献 1 は、直交するフォーク状の領域を有する長尺状のハンドルを備えた器具を記載している。フォーク状の領域はダニの頭部および胸部の周囲に係合し、器具のハンドルはダニが皮膚から離脱するまで回転される。種々のサイズのダニを取り除くためには、異なるサイズを有するフォーク状の領域を備える複数の器具が必要とされる。

【特許文献 1】オーストラリア国特許第 6 9 5 6 3 2 号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明の目的は、上記の不具合のうちの 1 つ以上を克服または軽減することにある。あるいは本発明の目的は、消費者に有用な選択肢または市場において入手可能な選択肢を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

必ずしも最も広義な形態ではないし唯一の形態でもないが、一形態において、本発明は動物およびヒトからダニを除去するための装置に関する。装置は長手方向の軸線を有する長尺状グリップと、長尺状グリップの一端に位置する第 1 の二股状チップと、長尺状グリップの第二端に位置する第 2 の二股状チップとを備え、第 1 の二股状チップおよび第 2 の二股状チップは長尺状グリップの長手方向の軸線に対してほぼ直角に延び、第 2 の二股状チップは第 1 の二股状チップよりも小さい。

【0007】

長尺状グリップは円柱状であることが好ましい。長尺状グリップの表面は起伏を有していたりし加工されていたりして使用者の手で握りやすくすることができる。

第 1 の二股状チップおよび第 2 の二股状チップは、長尺状グリップに向かって直線または曲線をなしてよい。第 1 の二股状チップおよび第 2 の二股状チップは、長尺状グ

10

20

30

40

50

ップの長手方向の軸線から同一方向または反対方向にほぼ直角方向に延びることができる。二股状チップはその分岐先端部が面取りされていることが好ましい。チップは二股に分かれて分岐先端部を形成する。分岐先端部の間の空間は、ダニに離脱可能に係合してダニを除去することに適する長尺状のV字型を形成する。第2の二股状チップは第1の二股状チップよりも小さいことが好ましい。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

本発明の実施態様を、添付された図面を参照しつつ単に例示する方法により説明する。

図1には装置、すなわち長尺状グリップ2を備えるダニ除去装置1を図示する。本実施態様において、長尺状グリップ2は円柱状をなし、表面は微細な凹凸を有するように加工されている。長尺状グリップ2は平滑、波型、筋状などの表面加工された領域を有し、握りやすくなっているもよいことは十分に理解されよう。さらに、長尺状グリップ2は起伏を有したり、円柱状であったり、断面が正方形、六角形、または八角形であったりして、使用者の手で握りやすくなることができる。

【0009】

長尺状グリップ2の一端において、第1の二股状チップ3が延びている。長尺状グリップ2の第二端には第2の二股状チップ4が配置されている。二股状チップ3, 4はそれぞれ2つずつの分岐先端部5, 6を有する。分岐先端部5, 6の先端は面取りされている。分岐先端部5, 6はそれぞれ長尺状のV字型空間を形成する。二股状チップ3, 4はそれぞれ外面9, 10を有し、外面9, 10はほぼ平坦であり、感染された動物またはヒトの皮膚と十分に接触することができる。

【0010】

本実施態様において、第1および第2の二股状チップ3, 4は、図1の11, 12に示すように、長尺状グリップ2からガチョウの首の形状のように湾曲して延び、かつ長尺状グリップ2の長手方向の軸線からそれぞれ反対方向に延びている。湾曲部11, 12は直線状の部分または曲折した部分により代替され得ることは理解されよう。さらに湾曲部11, 12は、長尺状グリップ2の長手方向の軸線から同一方向に延びていてもよい。

【0011】

本実施態様における第1の二股状チップ3の全体サイズおよび長尺状のV字型空間7の奥行きは、第2の二股状チップ4およびそのV字型空間8よりも大きいように図示されており、これによりダニ除去装置1を異なるサイズのダニを除去する際に使用しやすくなることができる。第1および第2の二股状チップ3, 4は同一サイズを有し、さらにそれぞれの長尺状のV字型空間7, 8の奥行きが同一または異なっているもよいことは理解されよう。

【0012】

使用に際しては、使用者はダニ除去装置1の長尺状グリップ2を保持し、第1の二股状チップ3または第2の二股状チップ4を動物またはヒトの皮膚に居るダニに近接させ、第1または第2の二股状チップ3, 4の一对の分岐先端部5, 6をダニに向ける。チップの分岐先端部5または分岐先端部6をダニの下に滑動させ、ダニを分岐先端部5または分岐先端部6同士の間確実に配置させる。その後使用者は皮膚から僅かに引くようにして力を加え、その後親指と人差し指との間でダニが離れるまで装置を回動させたりねじったりする。通常装置を2回または3回ねじることにより、ダニは離れたり除去されたりする。使用者はその後必要に応じて殺菌剤を付与する。

【0013】

ダニは幼虫、さなぎ、成虫という成長の段階により、さらにダニの種類によりサイズは大きく異なる。さらにダニは長時間にわたり皮膚上に存在すると、血液を大量に吸引する可能性がある。本発明のダニ除去装置は、除去するダニのサイズの如何に関わらず、動物またはヒトの皮膚からダニを除去する有効な方法を提供する。本発明のダニ除去装置には、失くしやすく、かつ感染動物から多数のダニを除去することに長時間を要するような複数サイズの器具を用いる不便さがなく、除去する際にダニを潰す危険性もない。

【 0 0 1 4 】

本発明の他の多様な変形および改変は、本発明の精神および本発明の範囲から逸脱することなく実施され得ることは十分に理解されるべきである。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 5 】

【図 1】 本発明の装置の一実施態様の概略図。

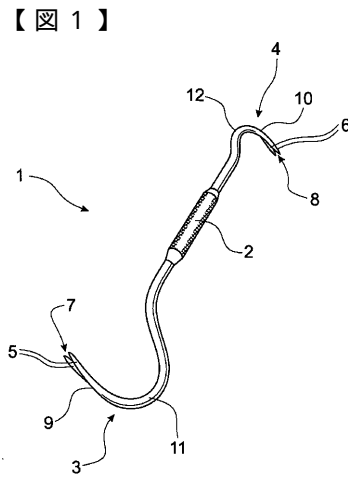


FIG. 1

フロントページの続き

(72)発明者 ブルーム、ライオネル

オーストラリア国 2 1 4 8 ニューサウスウェールズ州 キングス パーク ビニー ロード
2 6

審査官 本郷 徹

(56)参考文献 特開平09 - 009847 (JP, A)

特開2000 - 316406 (JP, A)

米国特許第6102919 (US, A)

米国特許第5447511 (US, A)

国際公開第96 / 38095 (WO, A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A01M 3/00

A01K 13/00

A61B 17/50